

平成 29 年 12 月 18 日

公益財団法人庭野平和財団

理事長 庭野 浩士 様

コード番号 : 16-A2-054

特定非営利活動団体 日本イラク医療支援ネットワーク

平成 29 年度報告書

「ヨルダンにおけるシリア難民の内戦負傷者／障害者支援事業」

1. 事業目的 (500 文字程度でご記入ください)

ヨルダン国内のシリア人難民キャンプやシリア難民の多く住む地域には、爆発によって手足が切断されたり、銃で撃たれて脊髄損傷となったりした戦傷者の他、もともと障害のある難民もいるが、彼らへのリハビリテーション等の必要なサービスが十分に行われていない。

JIM-NET は、2013 年後半から、特に支援の必要が顕著なシリア内戦による負傷者・障害者に対し、居住地から医療施設への送迎サービスの提供、理学療法士による在宅リハおよび難民キャンプ内で、またイルビッドで女性対象のリハビリ提供、さらに、障害者自身が地域で活動することを目指す活動を実施している。

しかし、この間もシリア国内の紛争は解決の兆しが見えず、難民負傷者／障害者への援助が足りていない状況は残念ながら改善していない。戦争を止めるため、民間人の犠牲者を最小限に食い止めるために、国際社会が何をできるのかが問われ続けている。

これまでにできた障害者の活動における地元の NGO やグループとの協力体制をすすめ、障害のある女性自らが力をつけて独立できるようになることを目指し、人道的な視点でシリア内戦により厳しい立場におかれている負傷者・障害者の支援とともに、提言／啓発活動を通してシリア和平実現を目指して取り組みを行っている。

2. 事業内容と実施方法 (1,000 文字程度でご記入ください)

① 負傷者・障害者のための移送手段提供 :

治療やリハビリテーションのための通院や入退院の際に、身体状態が理由で公共交通機関の利用が困難な負傷者・障害者を対象に、住居と医療機関の間を往復する車両を運行する。利用希望者は、利用したい日の前日までに電話で予約を申し込む。初回の利用希望者には、情報（氏名、居住地、身体の状況、行き先等）を聞き取り、サービスを受ける要件がそろっているか確認する（このサービスを利用できるのは身体的な理由で公共交通機関が利用できない負傷者・障害者であり、経済的な理由の人は対象外としている）。予約を受け付け、運転手は予約に基づきサービス利用者の居住地や病院等に出向き、移送する。利用者については、毎日の記録をつけ、その情報を月ごとにまとめてレポートを作成する。

また、シリア難民を受け入れている病院等の医療施設と連携することで、より効果的に、サービスを必要とする人々が利用できるよう、関係を構築していく。

② 女性と子どものリハビリテーション提供

シリア難民が多く暮らすシリアとの国境近くのイルビッド県において、慣習的に社会に出にくい障害のある女性と障害児を対象に、女性理学療法士によるセンターおよび在宅のリハビリテーションを提供する。

担当するスタッフは、女性の理学療法士 2 人と女性のコーディネータ 2 人で、コーディネー

タの一人は自らも障害があり、障害のある女性に「ピア」として関わることが可能である。理学療法士の1人は、週に2日在宅リハを担当し、コーディネータと共に身体的理由によりセンターに来ることが難しい利用者の住居に赴く。利用者に対しては、本人への施術と合わせて、障害を悪化させないために自宅でできる運動や、普段の生活動作において気をつけること、また障害児の両親に対してはどのようにケアするかについての指導が行われる。

センター、在宅リハとともに利用者の記録をとり、毎月のレポートにまとめる。

③ 女性障害者の社会参加活動：

昨年度に実施した社会参加のため研修を発展させ、女性の障害者の社会参加を目指した活動を計画、実施する。この活動では、当事者である女性の障害者が地域の他団体やNGOとの関係を構築し、自ら外出して他の人たちと交流する機会を月に2回定期的にもち、社会参加を進めるきっかけを作る。活動は障害者や障害者団体が中心となって実施し、JIM-NETはその計画、立案から実施のプロセスを側面的に支援する。活動内容についても、参加者が自分たちで話し合って決めていく。

④ 情報発信と国内イベントの実施：

紛争により被害を受けた一般市民の声を国内外に知らせ、シリアの和平につながることを目指して情報発信し、シリア問題について啓発を目的とした国内イベントを実施する。

3. 実施経過 (500文字程度でご記入ください)

(年月日) 2017年4月～2017年9月

① 負傷者/障害者のための医療機関への移送サービスを、週末を除く週5日間、負傷者/障害者からの要請に合わせて車両を運行した。

② イルビッド県のリハビリテーション施設にて、女性障害者と子どもを対象に、週5日、理学療法を提供し、週2日は利用者の家を訪問し理学療法を提供した。

③ 女性の負傷者・障害者が月2回定期的集まり、障害のある女性の可能性を社会に伝えるための人形劇を作り、ショッピングモールや公園などで披露した。脚本、人形はすべて自分たちで作り、劇の後にはQAセッションを設けて、障害に対する正しい理解を広めるよう努めた。

(年月日) 2017年8月4日

④ 国内イベントの実施

「シリアNOW! ~難民支援の現場から~」と題し、シンポジウムを開催した。パネリストには、東京外大の青山弘之先生、JIM-NETの海外事業担当の内海と事務局長の佐藤があたり、シリア国内の状況およびヨルダンにおける活動やシリア難民の状況について報告し、今後シリア和平のためにどうしたらよいのかを検討した。

4. 活動の成果 (500文字程度でご記入ください。)

① 負傷者・障害者のための移送手段提供

各月の利用者数は以下の通り。昨年6月にヨルダンがシリアとの国境を閉じて依頼、新規の患者が運ばれてくることがなくなったため、現在の利用者はすべて1年以上前に負傷した人たちであり、より重傷な人の利用が多くなっている。利用者の8割が歩行困難者で、9割が戦傷者である。事業実施期間中に延べ138人が延べ476回利用した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
利用者	38	26	15	25	20	14	23
移送回数	82	61	48	80	118	87	79

※6月はラマダンで活動時間を短縮したため利用者数が少ない。

② 女性と子どものリハビリテーション提供

事業実施期間中に延べ 183 人が延べ 567 回（セッション）のリハビリをセンターで受けた。また、延べ 40 人に 113 回（セッション）の在宅リハによる理学療法を実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
セッション数(センター)	116	135	74	92	63	92	95
対象者数(センター)	31	33	22	29	18	25	26
セッション数(在宅リハ)	10	23	16	17	19	15	16
対象者数(在宅リハ)	6	6	7	10	11	7	8

※6月はラマダンで活動時間を短縮したため、利用者数が少ない。

③ 女性障害者の社会参加活動

「女性障害者でもできる」というメッセージを伝える子ども向けの人形劇を作り、計 10 回の公演を実施した。

脚本、人形も舞台の小道具も自分たちで作り、人形劇の後には、子どもたちに質問を投げかけ、大人向けの解説をすることを自分たちでマネージしてやり遂げて、参加者は自信をつけ、自分たちが行動することが人々の意識を変えることを実感していった。

④ 国内イベントの実施

8月4日にJIM-NETが主催した「シリア NOW! ~難民支援の現場から~」には、約30人の参加者を得て、シリア国内の状況およびヨルダンにおける活動やシリア難民の状況について報告した。シリアへの関心が一般に低くなることが危惧される中、メディア関係者の参加も複数あり、今後の報道等に期待できる関係ができた。

5. 今後の課題（500文字程度でご記入ください。）

JIM-NETはヨルダンにおけるシリア難民の負傷者・障害者支援を2013年より実施している。当初はシリア紛争の被害者への「緊急支援」的な活動として考えていたが、紛争が未だ終わらず、難民の帰還の目途もたっておらず、「緊急支援」ではない領域に入っている。

紛争から7年目に入り、特に負傷者・障害者の支援を行ってきた民間団体の中には、経済的な理由やヨルダン政府から活動許可を取れないことなどを理由にすでに活動を中止したところもある。しかし、まだ傷の治療中の、リハビリ中の、中途障害を負って元の職業を継続できなくなった人たちがいる。彼らの状況を作った責任は「紛争」、つまり社会にあり、彼ら自身の落ち度ではない。社会問題の犠牲者がいる限り、社会は彼らを助けなければならぬ。

大けがを負い障害の残った体でも、本人たちは明るくたくましく生きている。彼らに生きる力はある。我々がすべきは、彼らが一市民として生きるために社会に足りないところを支援することである。それが何かは本人たちが一番知っている。援助の基本中の基本ではあるが、「当事者を中心に」ということを忘れずに活動を継続させることが必要だと肝に銘じている。